

放送大学「生涯学習支援番組」(2019年度第5回制作)の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下、「学園」という。)のテレビ番組(以下、「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2019年度に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙1のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙1~3のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の下見、選定

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、後処理
- ・広報用写真(著作権処理を要しないもの)の撮影及び素材納品

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。なお、資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書出演者から受領すること。
- ・番組出演者にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記4)の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理、並びに処理に伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV等による同時再放送を含む)・インターネット配信(学園のHP上での公開。ただし、ダイジェスト動画においては、YouTube等外部HP上での公開にも対応のこと)
- ・学習センター等へのDVD配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理
- ・権利処理及び利用した素材(音楽及び上記3)等に伴う出演者並びに上記4)含む)等の記録報告

- 6) 美術セットの調達と操作
 - ・大道具・小道具、生花木の調達及び操作
- 7) タイトル、テロップ・パターンの制作等
 - ・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
 - ・CG・アニメーションの作成及び操作

番組のダイジェスト動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。
- 8) 番組の試写
 - ・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業
- 9) 放送用台本の作成、印刷
 - ・放送用台本の作成及び印刷
- 10) 音響効果
 - ・番組に関わる選曲および効果音制作等
- 11) スタジオ収録及び収録時の副調整室指揮
 - ・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
 - ・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
 - ・ドライ、カメラリハーサル
 - ・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し
- 12) 後処理、手直し等
 - ・資料の整理
 - ・伝票の整理
 - ・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
 - ・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。
- 13) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数

請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用する。収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
- 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組審査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
- 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 - 収録及びロケ（要員および機材）
 - オフライン編集
 - 音響効果
 - スタジオ大道具・小道具、道具操作
 - メイク
 - 衣装(スタイリスト)
- 4) 上記に含まれないものについては双方で協議して決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体は XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を別紙 1 に示す請負期間完了日までに納品し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は学園技術フォーマットに準拠し、編集ソフトは登録時のエラーを回避するため「Adobe Premiere 2018」以外を使用すること（別添「テレビ制作技術基準」を参照）。

	生涯学習支援番組 (1番組あたり)	告知用動画 (1番組あたり)
放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
番組考査試写用DVD-R	1本	1本
番組編成業務用DVD-R	1本	—
放送用台本及び電子データ	1部	1部

9. 番組制作業務完了等の報告

請負事業者は、番組完成後「番組制作業務完了報告書」、「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」を放送部放送管理課に提出し、学園職員による検査を受ける。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて1名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

テレビ制作技術基準

別添

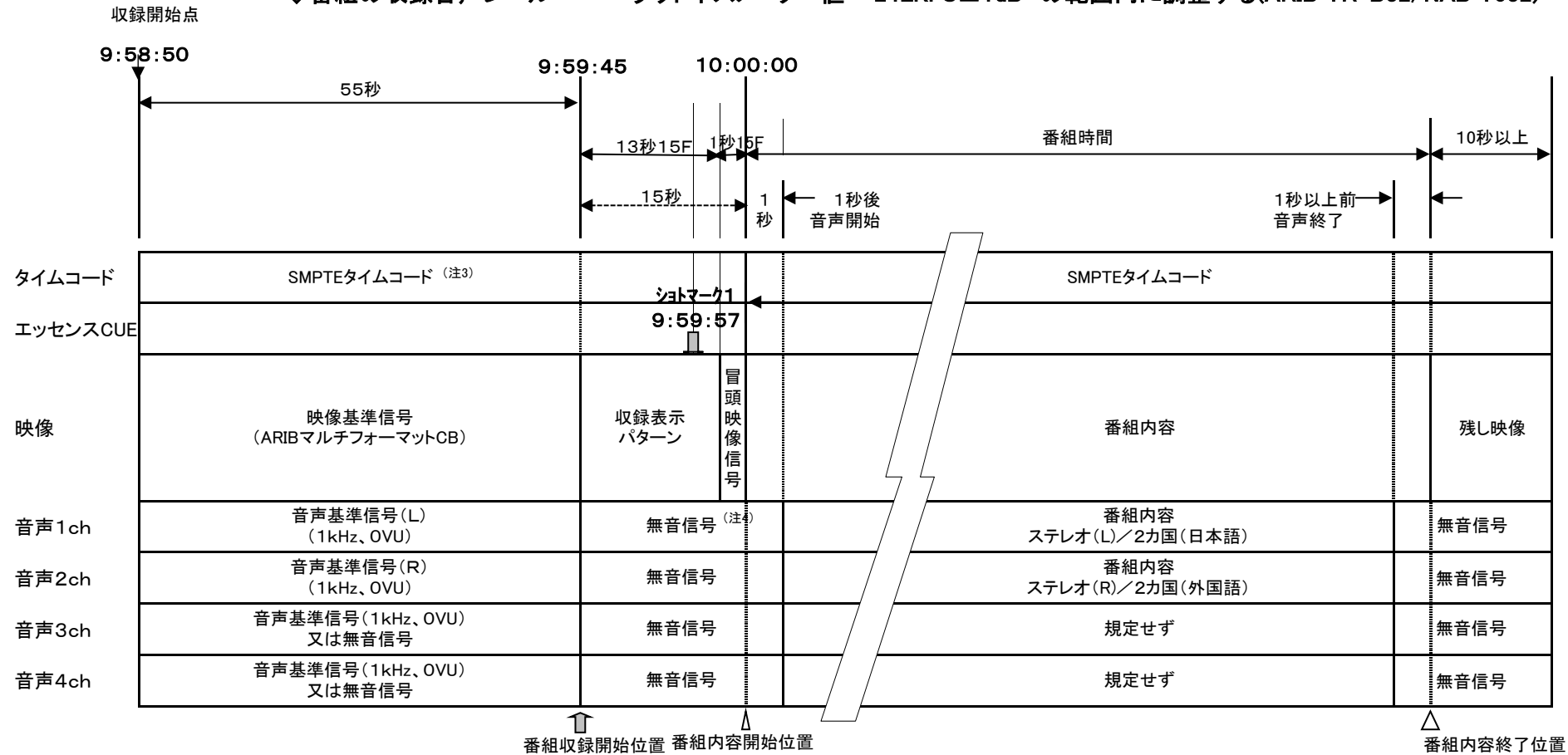
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

平成31年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル ・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

* 送出サーバー登録時の頭出し用「ショットマーク1」を09:59:57:00に記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリアンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別紙 1

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 2番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	BS キャンパス ex 特集	シリーズ 転換するまちづくり～都市計画からエリアマネジメントへ～（45分×3本）	2年	6,000千円	契約締結日～令和2年3月19日
2	キャリアアップ	データサイエンス 基礎から応用（仮）（45分×4本分）	2年	8,624千円	契約締結日～令和2年3月19日

2. 告知用動画 2番組（1分版×全放送回分7本）

内容	概算所要経費（税込）
放送やネット配信等で利用する1分間の告知用動画。	上記1に含む

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター、プロダクション 船津 貴弘 ほか

1)番組タイトルなど データサイエンス基礎から応用(仮)	4)放送回数、期間、マルチ展開など 2020年4月～(2年20回) 5) NET 展開 放送大学キャリアアップ支援認証制度として、ネット上での演習などを計画。
2)関係の深いコース 情報	6)番組尺、本数 45分 × 8本 ※今年度は4本制作
3)番組の領域 学問への興味を沸き立たせる領域	7)番組の種別 キャリアアップ
8)内容等 a. 目的・ねらい 今の社会人には、人工知能と共にデータサイエンスに関する新しい知識を獲得することが求められている。これらの科目は、大学の必修科目にするという動きもある。2018年度に制作された「データサイエンス革命」ではデータサイエンスのトピックを紹介したが、データサイエンスに関する知識をより深めること、技術的な話題を解説すること、そしてデータサイエンスを適用した応用事例を紹介することを目的として、本番組を制作する(公益性)。また、本番組による収益を得るために、他大学との単位互換の更なる推進、知識獲得を確認するため演習教材および理解度テストを「放送大学キャリアアップ支援認証制度」として有償提供する(経済性)。 b. 内容・構成 データサイエンスに関する標準カリキュラムによると、データサイエンスは数理・統計、プログラミング(Python, Rを用いた統計処理をするためのプログラミング)、応用領域の三本立てで構成するのが一般的である。そこで本番組では、前半3回を基礎技術編として数理・統計に関する技術情報を提供し、後半5回を応用領域編として、様々な事例を解説する。プログラミングは現在、面接授業をおこなっているため、本番組からは除外する。詳細は以下のとおり。 1. <u>データの可視化：統計およびデータの可視化で何がわかるのか。データ収集の目的の設定と戦略立案、計画、実施というプロセスを紹介する。</u> 2. <u>データ管理技術とプライバシー保護：データの蓄積とアクセス、データの精選、モデル構築、データからの価値創造、データの匿名化処理技術、データガバナンス、倫理、セキュリティについて紹介する。</u> 3. <u>(応用)医療におけるデータサイエンス：新薬分析、治療効果分析などへの適用事例を紹介する。</u> 4. <u>(応用)画像認識：AIを用いた画像・映像処理の基本的な処理技術から次代の社会創造に繋がる最先端の技術や研究成果を紹介する。</u> (今年度制作はここまで、以下は来年度制作を行う。) 5. 社会調査法の基礎：データを集めるためのアンケートの設計、調査、分析技術を紹介する。 6. (応用)ビジネスにおけるデータサイエンス：商品の改善、およびサービス改善に活かすためのデータ収集と解析、およびデータマイニング、ビッグデータ、SNSの事例を紹介する。 7. (応用)AIとデータサイエンス：シミュレーション、AIへの適用事例を紹介する。 8. (応用)自動車制御におけるデータサイエンス：自動車制御、自動運転におけるデータ収集と解析事例、IoTとセンサー技術、センサーネットワークを紹介する。 これらの講義は、小学校教員向けプログラミング教育講座と同様の講義放映、およびLMSによる学習成果を評価する仕組みを適用する。さらに、他大学でのデータサイエンス科目の反転授業用教材として流用できるように、各回は、15分程度で一つのまとまったトピックを紹介できるように構成する。特に応用領域編では、データ収集の目的の設定と戦略立案、計画、必要な技術、実施という共通の構成となるように制作する。これによって、他大学が分野を横断する構成にするときにも、本番組のコンテンツを再編しやすくなる。また、教材の一部(初回分、各コンテンツの冒頭数分のみ等)を編集して、YouTubeでの発信用コンテンツを制作する。有償提供される理解度テストでは、各講師に以下の教材	

を開発してもらおう。(1)学習を評価するための問題と5択の解答,(2)正解および不正解に対する解説。(イメージは別紙参照)これらの教材を提供することで、本学の教材としての価値を高める。

c. 取材対象 ロケ取材：有

データサイエンスは、静的なデータを取り扱う領域であるため、視覚的な訴求力に弱みがある。データサイエンスの技術を視覚的に伝える工夫は必須である。そこで8回の講義では、(1)取材を行う、(2)当事者をゲストに迎えるか、こちらから出向いてインタビューを行う、などの工夫をする。また、講義シーンでは、各講師に話しやすい環境を提供するために、教室風の授業シーンにする。学生役には、情報コースの有志の学生に参加を募る。

d. 出演者など(敬称略)

慶応義塾大学, 統計数理研究所, 放送大学, 筑波大学(2名), 滋賀大学, 南山大学, 北海道大学の方

9)主体性の確保

企画, 準備などは企画提案者が行い, 情報コースで教材構成, 活用などの協力体制をとる。

10)制作予定期間 契約締結日~2020年3月

11)演出上の特記事項 データサイエンス可視化 CG制作、YouTube用の個別コンテンツ制作含む

12)スポット制作希望(原則有り) 有 無 14)字幕制作希望 有 無

※ 制作経費は、できる限り記載をお願いします。不明の場合は「不明」と記載してください。

(別紙)

LMS で用いられる理解度テストのイメージは以下のものである。各解答に対して、正解・不正解を示すのではなく、解説を表示し、解説を読むことで受講者の理解を深めることを目指す。

1. 解答の各選択肢に対して、正解・不正解を明記。
2. 不正解の選択肢に対して、不正解である理由を解説。再学習のために参照する講義の回を明記する。
3. 正解の選択肢に対しては、その選択肢が正解である理由を解説。さらに理解を深めるための参考文献を提示する。

The image displays a simulated LMS interface with three overlapping windows. The top-left window, titled 'データサイエンス評価テスト', contains a question: 'データサイエンティストに求められる技術を以下の選択肢の中から1つ選べ。' followed by a list of five options: '1. 統計分析技術', '2. データの集合が意味する内容を可視化するための技術', '3. . . .', '4. . . .', and '5. . . .'. Below the list are buttons for '解答', '戻る', and 'OK'. The top-right window, titled '解答解説', shows a '残念、不正解です。' message and a detailed explanation: 'データサイエンティストとは、〇〇を行う人々を指します。したがって、〇〇の技術は〇〇の理由により、習得すべき技術としての優先順位は高くありません。第〇回の講義を確認してください。' At the bottom of this window are buttons for '問題に戻る' and '終わらせる'. The bottom window, also titled '解答解説', shows a '正解です。' message and an explanation: 'データサイエンティストとは、〇〇を行う人々を指します。したがって、〇〇は〇〇の理由により、習得すべき重要な技術です。さらに理解を深めるために、文献〇〇や〇〇を読みましょう。' with an 'OK' button at the bottom right.

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター、プロダクション
小林 敬直

<p>1)番組タイトルなど</p> <p>シリーズ 転換するまちづくり 都市計画からエリアマネジメントへ～</p>	<p>4)放送回数、期間、マルチ展開など</p> <p>3月以降 複数回(2年、20回程度)</p>
<p>2)関係の深いコース</p> <p>生活と福祉コース</p>	<p>5) NET 展開</p>
<p>3)番組の領域</p> <p>学問への興味を湧き立たせる領域</p>	<p>6)番組尺、本数</p> <p>45分 × 3本</p>
<p>7)番組の種別</p> <p>BS キャンパス ex 特集</p>	
<p>8)内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>地方創生がうたわれ、活力あるまちづくりが強く求められている今、“エリアマネジメント”という手法が注目を集めている。地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組みだ。従来の行政を中心とした「つくる」都市計画から、住民・地権者等が自らの知恵を生かし地域を「育てる」ことを目指している。</p> <p>エリアマネジメントで地域がどう変わるのか？シリーズでは、多様な実践例や豊富な資料映像をもとにその成果を伝え、今後の地域社会を豊かにする方策を探りたい。提案者でもある田城孝雄教授がコーディネーターとなり、各回の事例検討についても、学術的な視点から意義付けを行う。</p> <p>全国エリアマネジメントネットワークとの研究成果等利用番組(タイプB)による3本シリーズ。</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <p>①第1回エリアマネジメントの基礎とエリアマネジメントを支える制度仕組み(スタジオベース)</p> <p>エリアマネジメントとはどういうものか。その特徴や発展の経緯をとりあげ、それを学問的にどう捉えていけばいいかを提言するプロローグ。エリアマネジメントで行われる取り組みは、まちの振興だけでなく減災からコミュニティづくりなど多岐にわたる。欧米のB I D制度の歴史から、住民等が主体的に地域を「育てること」で何がかわるか。全国エリアマネジメントネットワーク会長小林重敬横浜国大名誉教授と田城教授が、対論形式で地域創生の新たな方向性を語る。</p> <p>②第2回エリアマネジメント活動の実際その1大都市都心部の場合(スタジオ+資料映像)</p> <p>大都市圏のエリアマネジメント活動を詳細に分析し、その広がりや問題点を探る。2002年にN P O法人が立ち上げられた大手町・丸の内・有楽町地区(大丸有)では、通りを歴史やビジネス、ショッピングなどに性格付け、街路灯のバナーフラッグで雰囲気を作るほか、環境に優しいシャトルバス等の仕組み、地域の一体感を高めるママさんカフェ等のイベントで、地域の価値を高めている。広告の運用や会員でもある地権者の協力を財源に新たなまちの魅力を引き出し、正のスパイラルを生み出している。このほか大阪市の取り組みなど都心ならではの利点を生かした、先進事例を通して、その広がりや課題を見ていく。</p> <p>③第3回エリアマネジメント活動の実際その2地方中核都市、地方都市の事例(ロケベース)</p> <p>地方都市ならではの取り組みを紹介する。</p> <p>福岡・博多地区、福岡天神地区のイベントを中心とした地域活性化の取り組み、豊田市中心部の百貨店撤退跡地の公共空間利用を生かした取り組みなどを現地レポートするほか、札幌市や福井市などの事例を資料を活用しながら伝えていく。</p>	
<p>c. 取材対象</p> <p>ロケ取材：<input checked="" type="checkbox"/>有・無 エリアマネジメント活動実践例 ほか</p>	
<p>d. 出演者など</p> <p>小林重敬(横浜国立大学名誉教授 現森記念財団理事長)、全国エリアマネジメントネットワークの各地の実践者、聞き手役(未定)、田城孝雄(放送大学)</p>	

9)主体性の確保 提案者でもある本学・田城孝雄教授がコーディネーターとなり、各回の事例検討についても、学術的な視点から意義付けを行うことで放送大学の主体性は確保できる。	
10)制作予定期間 契約締結日～2020年3月	
11)演出上の特記事項 研究成果等利用番組(タイプB) 全国エリアマネジメントネットワークと大枠合意済み。同ネットワーク加盟者所有の映像資料などは無償で使用可能。	
12)スポット制作希望(原則有り)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
14)字幕制作希望	有 ・ 無

※ 制作経費は、できる限り記載をお願いします。不明の場合は「不明」と記載してください。